



白聖はくあ

第12号 令和3年12月3日発行



【進路行事について】

《3学年第2回進路検討会》

11月25日(木)・26日(金)の2日間、個々の生徒の志望分野および将来の目標にもとづき、大学一般入試の出願予定、校内模試・外部模試等の成績を参照しながら、よりよい出願について検討を加えることを目的として実施しました。

《検討の観点》

- ① 外部模試と校内模試の結果資料にもとづき、個々の生徒の出願パターンを検討し、一般入試科目の実力と今後の課題について把握する。
- ② 対象生徒本人の視野に入っていない大学選びの提言をする。

《校内模試について》

- 【1】 文型・理型の主要大学ごとに過去4年間の本校合格者生徒の第1～3回校内模試偏差値を算出し、データベースを構築した。

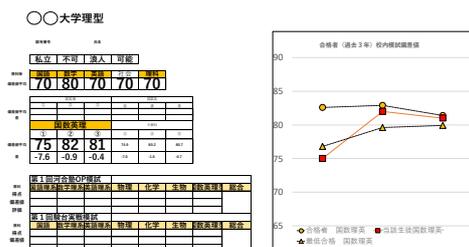
【文型】

「国英社」「国数英」
「国数英社」「5教科」の偏差値を算出

【理型】

「数英理」「国数英」
「国数英理」「5教科」の偏差値を算出

- 【2】 データベースを基にしたグラフを作成し、過去の合格者と比較することで、記述力の把握と合格の可能性を探る(本校独自の分析)。



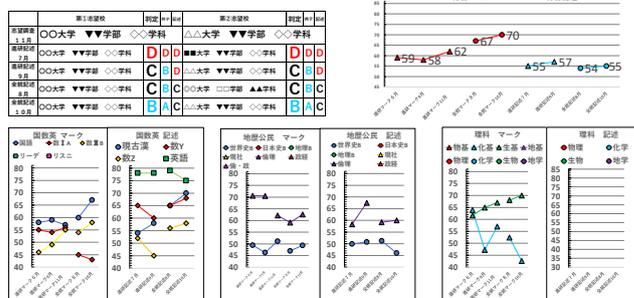
*このグラフは見本用として作成したものです。

○・・・合格者平均偏差値 △・・・合格者最低偏差値
□・・・当該生徒偏差値

《外部模試について》

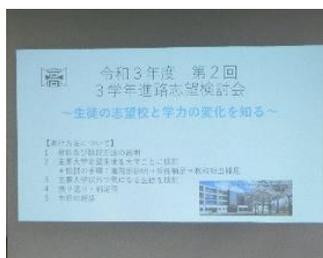
- 【1】 記述模試4回・マーク模試5回分の志望校と判定、各教科における点数と偏差値を一覧表にまとめることにより、「教科の得意・不得意」や「志望校・点数・偏差値の変化」を把握することを目的として作成した。

- 【2】 個人データを基にしたグラフを作成し、各教科の偏差値の推移を知る。



*このグラフは見本用として作成したものです。

生徒一人ひとりが、よりよい受験をするために、客観的なデータ分析による個人の把握と、担任及び教科担当者が実際に指導してきた経験値を加えることにより、自然科学・社会科学的な両視点からの検討をしました。



【情報過多社会に求められる能力】

《情報収集力を身につけよう》

物事を考えるには、元となる知識や情報が必要となります。情報が溢れかえっている現代では、多くの情報の中から自分や組織にとって最適な情報を見つけ、情報を収集・管理する能力が重要になります。このような能力を「**情報収集力**」と言い、高い情報収集力を持っていれば、どんなに多くの情報を手に入れても適切な管理ができるようになります。



《事実と意見を区別する》

ただし、情報を収集するにあたっては、気を付けたいことがあります。それは**事実（ファクト）**と**意見（オピニオン）**の区別をすることです。ファクトとは、過去に実際に起きたことや観察や調査、情報提供者や出典先で客観的に事実だと証明できるもの。一方、オピニオンとはある人の何かに対する意見や推論などで人によって変わるものです。インターネット上の記事などを読むと、意見があたかも事実であるような書かれ方がしている場合があります。そのくらい巧妙に書かれている記事がインターネット上には多数存在します。個人が気軽に発信しやすいインターネット社会には、事実と共に個人の見解も数多く織り交ざって流れてきます。

そこで必要になってくる力が「**情報分析力**」です。そこにある情報の中から「情報の正確性」「情報の有益性」までを見通し、不必要な情報に惑わされない力です。「この情報はどう使われるか」「この情報が誰に使われるか」などの活用までを想定できれば、その後の整理・共有も非常にスムーズに進められます。

情報収集力を身につけるために意識してもらいたいことは、**情報収集は目的ではなく物事の解決を進めやすくするための手段である**ということです。そのため、「今行っている情報収集の目的は何か」「収集した情報はどのように活用されるのか」「収集した情報を活用するのは誰か」までを意識しなくてはなりません。また、**仮説をもととして情報を集める**ことも有効です。何の手掛かりもない状態で複数の情報を集めるよりも、仮説をもととして情報を収集すれば関連性の高い情報のみを取り扱うことが可能となります。

他にも、ファクトとオピニオンを区別することで物事の本質を見極めることができ、**1つの事実に対して解釈がたくさんある**と知ることができます。「人の意見はそれぞれで、どれが正しくて正しくないかではなく、いろいろな意見があって良いのだ」と思えるようになります。

「意見は人それぞれ違う」ということを理解できるようになると、**相手の意見を尊重しつつ、自分の意見も伝える**ことができるようになります。昔の常識が今の非常識、昔の非常識が今の常識ということも多々あります。他者の意見を聞き、自分の頭で考え、事実と意見を判断することで、**主体性と協調性を育み、果敢に未来を切り拓いて**いきましょう。

2020年度大学入学共通テストでは各教科とも問題文が長めで、二つの文章を見比べたり、図や表から情報を読み取ったりするなど、**読解力を求める**問題が多く出題されました。こうした問題を出題する背景には、さきほど記述したように、複数の情報から正しい情報を読み取る力、すなわち、**情報過多社会に必要な力が身についているかどうかを判断する**狙いがあると考えられます。

また、文部科学省が定めている学習指導要領は、

【現在の学習指導要領】

- ①基礎的な「知識及び技能」
- ②知識及び技能を活用し、「自ら考え、判断し、表現する力」
- ③「学習に取り組む意欲」

【新学習指導要領】

- ①実際の社会や生活の中で生きて働く「知識及び技能」
- ②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力」
- ③学んだことを人生や社会に生かそうとする

「学びに向かう力、人間性等」

となっています。



センター試験に比べると、大学入学共通テストは、実生活と結びついた知識及び技能を問う問題が多く出題されました（英語ではスマートフォン・地理では自然災害や自然環境、数学Ⅰ・Aでは陸上競技の短距離走100mなど）。これからは実生活と結びつけたうえで「思考力」「判断力」「表現力」を問うような問題が増えてくることが予想されます。そのためにも、「主体的に」「対話的に」「深い」学びをすることを日頃から心がけていきましょう。